

平成27年度「全国学力・学習状況調査」 鳴門市の結果の概要と対応策

鳴門市教育委員会学校教育課

1 はじめに

鳴門市におきましては、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習支援や生活習慣の改善などを、学校との協力のもとに図っていただくため、本市の小中学生全般にかかる文部科学省実施の全国学力・学習状況調査の結果の概要をご報告いたします。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定の学年の学力・学習調査等であるにもかかわらず、その調査結果があたかも本市の児童生徒の学力全体を評価したものとして捉えられる恐れがあることから、正答値、正答率の実数は公表しておりません。

2 現状・課題（平均正答率より）

(1) 小学校 [実施日 平成27年4月21日（火） 調査児童数 6年生436人]

各テスト結果の状況

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国平均正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
本市と国との比較	△	○	○	○	△
徳島県平均正答率	68.5	66.1	74.6	45.5	59.7
本市と県との比較	△	○	○	○	○
全国平均を上回った領域		「書くこと」 「読むこと」	「数と計算」 「量と測定」 「図形」 「数量関係」	「量と測定」 「図形」 「数量関係」	「物質」 「エネルギー」

○印は本市の平均正答率が比較対象の平均よりも高いことを示しています。

△印は本市の平均正答率が比較対象の平均よりも低いことを示しています。

各テストにおける結果の概要

【国語A】

- ◇漢字を正しく読むことは比較的よくできていました。
- ◆漢字を正しく書くこと、文中における主語を捉えること、話の内容に対する聞き方を工夫すること、新聞のコラムを読んで筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに不得意な傾向が見られました。
- ◆話す能力・聞く能力の基礎・基本を身に付けていない傾向が見られました。

【国語B】

- ◇新聞の割り付けをすること、中心となる語や文を捉えること、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えること、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することは比較的よくできていました。
- ◆目的や意図に応じ取材した内容を整理しながら記事を書くこと、文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことに不得意な傾向が見られました。

【算数A】

- ◇繰り上がりのある2位数の加法の計算、異分母の分数の減法の計算、除数が整数である場合の分数の除法、時刻を求めること、 180° よりも大きい角のおよその大きさを捉えること、グラフを読み取ること、式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することは比較的よくできていました。
- ◆加法における計算の確かめ方法、分度器を用いた角の大きさを求めること、示された見取り図の情報を基に展開図に必要な面の大きさを読み取ることには不得意な傾向が見られました。
- ◆他の領域と比べ、図形領域の理解を身に付けていない傾向が見られました。

【算数B】

- ◇平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせの理解は比較的よくできていました。
- ◆図形の性質を記述すること、単位量当たりの大きさを用いて代金を求めること、図形の性質を基に位置を求めること、見積もり結果の判断に不得意な傾向が見られました。
- ◆数と計算領域の基礎・基本を身に付けていない傾向が見られました。

【理科】

- ◇メダカの雌雄の見分け方法、メスシリンダーの名称理解、打ち水の効果についてグラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察することは比較的よくできていました。
- ◆知識、実験の構想、観察・実験・グラフ・観察記録からの考察に不得意な傾向が見られました。
- ◆B区分「生命」「地球」の基本的な理解を身に付けていない傾向が見られました。

改善のポイント

【国語】

- 既習漢字を常に使用する習慣をつけさせます。
- 文中の語句の役割や意味のつながりに気をつけて文章を読み取らせませす。
- いろいろなスタイルで書く機会を設けます。

【算数】

- 補充学習や家庭学習で計算技能の習熟を図ります。
- 図形領域の学習では、既習事項の振り返りを実践します。
- 学校生活の中で意図的に四捨五入や概数を多用し、実感を伴った理解を深めさせます。

【理科】

- 予想や仮説を立てて、観察、実験を行ない、記録やそのデータを表やグラフで整理し考察を充実させます。
- 科学的な言葉や概念を使用して考えたり、説明したりすることを繰り返し行います。

(2) 中学校 [実施日 平成27年4月21日 (火) 調査生徒数 3年生504人]

各テスト結果の状況

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
本市と国との比較	△	△	△	△	△
徳島県平均正答率	75.7	64.3	65.4	39.9	53.4
本市と県との比較	△	△	△	△	△
全国平均を上回った領域			「数と式」		
<p>○印は本市の平均正答率が比較対象の平均よりも高いことを示しています。 △印は本市の平均正答率が比較対象の平均よりも低いことを示しています。 各テストとも、国や県の平均正答率には及びませんでした。 国や県と比べ、無解答率が高い傾向にありました。</p>					

各テストにおける課題

【国語A】

- ◇相手の反応を踏まえて話すこと、登場人物の心情や行動に注意して読み内容を理解すること、文章から情報を得て考えをまとめること、表現の特徴を捉えること、文脈に即して漢字を正しく読むこと、毛筆を用いて楷書で文字を書くことは比較的よくできていました。
- ◆聞き手を意識し分かりやすい語句で話すこと、表現技法の理解、登場人物の心情や行動に注意して読み内容を理解すること、要旨を捉えること、文章構成を考えること、効果的に書くこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことに不得意な傾向が見られました。
- ◆特に書く能力の基礎・基本を身に付けていない傾向が見られました。
- ◆無解答率は全国平均の約1.6倍でした。

【国語B】

- ◇目的に応じて文章を要約すること、表現の工夫について自分の考えをもつことは比較的よくできていました。
- ◆資料を活用して話すこと、理由を書くこと、表現を工夫し自分の考えをもつこと、根拠を明確にして自分の考えを書くことに不得意な傾向が見られました。
- ◆聞く能力、話す能力、書く能力、読む能力の基礎・基本を身に付けていない傾向が見られました。
- ◆無解答率は全国平均の約1.7倍でした。

【数学A】

- ◇比の理解、加減乗除を含む正の数と負の数の計算、一次式の減法の計算、方程式を解く場面における等式の性質の使い方、投影図から空間図形を読み取ること、関数の理解、グラフから与えられた時間における道のりを読み取することは比較的よくできていました。
- ◆一次式の減法の計算、文字式、文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想の理解、連立二元一次方程式、空間における直線と平面の垂直について理解、立体の体積、平行四辺形になるための条件、証明、比例、時間と道のりの関係、二元一次方程式、資料から中央値を求めること、確率の意味の理解に不得意な傾向が見られました。
- ◆資料の活用領域の基本的な理解を身に付けていない傾向が見られました。
無解答率は全国平均とほぼ同じでした。

【数学B】

- ◆投映距離と投映画面の関係理解、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明すること、図形と図形を関連付けて事象を考察しその特徴を的確に捉えること、資料の傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること、与えられた表や式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明することなどに不得意な傾向が見られました。

- ◆ 数学的な見方や考え方や数学的な技能の基本的な理解を身に付けていない傾向が見られました。
- ◆ 無解答率は全国平均の約1.4倍でした。

【理科】

- ◇ グラフを分析して解釈し化学変化について正しく読み取ること、天気の記事から風力を読み取るとは比較的よくできていました。
- ◆ 水溶液の溶質と水の質量を求めること、水上置換法では正確に量れない理由の説明、天気の記事、雲の成因を説明すること、気圧の変化実験を計画すること、露点を測定すること、音の高さ実験を計画すること、見いだした問題を基に適切な課題を設定すること、セキツイ動物の理解、他者の考察を検討して改善し課題に対して適切な考察を記述することなどに不得意な傾向が見られました。
- ◆ 科学的な思考・表現、観察・実験の技能を身に付けていない傾向が見られました。
- ◆ 無解答率は全国平均の約1.3倍でした。

改善のポイント

【国語】

- 聞く、話す、書く、読む活動を学習にバランス良く取り入れ、継続して指導します。
- 様々な文章を読む機会を設定します。
- 場面に即した多様な語句・語彙指導や、辞書を活用した語句・語彙指導を繰り返すなど、言語事項の指導を工夫します。

【数学】

- 「課題に対する自分の考えを持ち、言葉や文章で表現し説明する活動」を取り入れ、考えたことをまとめたり表現したりする際にノートを使う指導を継続します。
- 数学的用語を常時使います。
- 宿題だけでなく、授業中も可能な限り演習の時間を設け反復練習させます。
- 授業のスピードや難易度を実態に合わせて調整します。

【理科】

- 可能な限り、観察・実験を実施し、思考・表現や実験・観察を通し「知識」の定着を図ります。
- グループ学習を効果的に取り入れ、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動の充実を図ります。
- 小学校の学習内容の確認・復習を導入時に取り入れます。

3 児童・生徒、学校への質問紙から見える改善のポイント

児童・生徒質問紙調査結果から改善を要すると思われる生活状況例

質 問		全国 (%)	本市 (%)	差 (%)
小 学 校	朝食を毎日食べている	87.6	81.5	-6.1
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	39.2	33.6	-5.6
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	60.0	54.7	-5.3
	学校の授業以外1日当たり1時間以上勉強している	62.7	57.0	-5.7
	普段（月～金）1日当たり1時間以上読書をしている	17.6	14.4	-3.2
	家で学校の予習をしている	16.7	10.5	-6.2
中 学 校	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	31.4	26.3	-5.1
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	56.2	50.1	-6.1
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	54.7	43.2	-11.5
	1日当たり2時間以上、テレビ等を見たり、聞いたりしている	55.7	60.3	+4.6
	1日当たり2時間以上、テレビゲームをしている	36.3	40.6	+4.3
	1日当たり3時間以上スマホでメールやインターネットをしている	17.2	21.8	+4.6
家で学校の予習をしている	11.9	7.7	-4.2	

例に挙げた以外にもいくつかの改善を要する生活状況がありました。また学校質問紙からもいくつかの改善を要する学習指導状況がありました。それらを基に次のように改善のポイントをまとめました。

1 生活の見直しポイント

- ・スマホ等の望ましい利用方法や有意義な休日の過ごし方について保護者の理解と協力を得られるように努め、学習時間の確保と学習習慣の確立を図ります。
- ・家庭との連携に努め、主体的な読書習慣の確立を図ります。
- ・各校で作成している「家庭学習の手引き」を活用し、効果的な家庭学習の仕方を指導します。

2 指導方法の見直しポイント

(1) 指導者の学力への危機意識啓発と指導力向上や授業改善

- ・学習のねらいを明確にし、習得型と探求型の授業を計画的に実践します。
- ・学力向上プランの進捗状況を定期的にチェックし、計画を常に意識させます。
- ・単元始めに理解度等の状況を確認し、学習者の実態にあった授業を展開します。
- ・反復学習に計画的、継続的に取り組ませ、基礎的基本的内容の定着を図ります。
- ・多様な問題に取り組ませ、教科や領域特有の解き方、考え方を学ばせます。
- ・一人一人の確実な向上を目指し、個別指導、補充指導、T.Tを有効に活用します。

- ・思考力、表現力の育成に、グループ学習やノートを効果的に活用します。

(2) 魅力ある学習環境整備

- ・学級経営力を向上させます。
- ・正しい言語環境や学習規律を確立させます。
- ・電子黒板をはじめ、教材や教具を効果的に活用し、魅力ある学習指導を推進します。

4 今後の小・中学校での取り組み方針

- 調査結果を各校において分析し、自校の課題を明確にします。
- 学力向上と、そのための効果的な教育環境の整備を図ることを目的とした、学校関係者や有識者、市教育委員会で組織する鳴門市学力向上推進委員会を設置し、各学校・幼稚園が連携して情報収集や調査結果の分析を行うとともに、具体的な対策について研究を進め、全市一体となった取り組みを進めます。
- 鳴門市学力向上推進委員会で決定した方針に基づき、各校の課題を学校長や学力向上推進員を中心に全教職員で共有し、課題解決に向けた具体的な方策を推進します。話し合いの後、課題解決に向け学校全員で取り組みます。